

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟  
公認指導員選考試験実施要領

本要領は、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（以下、「JDSF」という）指導員規則に基づき、新規指導員の指導員選考試験（机上、実技、面接：以下「選考試験」という）の実施方法を示したものである。

I. 選考試験項目

選考試験は3項目とし、項目を机上、実技、面接とする。

II. 評価方法

1. 選考試験3項目の評価配分は等分とし、総合評価300点を上限とする。
2. 選考試験合格レベルは240点以上とし、試験項目全てにおいて80点以上を取得しなければならない。

III. 選考試験実施内容詳細

1. 机上試験

- (1) 机上試験は、JDSFが作成した試験問題とする。
- (2) 試験時間は、1時間とする。
- (3) 受験に当たって参考書の持込は不可とする。
- (4) 机上試験には、JDSFが指名した指導員選考委員（以下、「選考委員」という）が立ち会う。
- (5) 評価は、100点を上限とし、合格レベルは80点以上とする。

2. 実技試験

実技試験は、シャドウとペアの両方で行い、評価は、その総合点とする。評価配分は等分とし、各50点を上限とする。

実技試験としての合格レベルは80点以上とし、シャドウとペアの合計評価とする。

(1) 第一部 シャドウ

- 1) ワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャの4種目の中から、スタンダード1種目およびラテン1種目の計2種目について評価を行う。
  - 2) 種目とアマルガメーションの選定は選考委員がその都度指定する。その都度とは、受験者がシャドウを行う直前のことである。
- 3) 指定された種目のアマルガメーションごとにスタートから8小節について行う。シャドウのアマルガメーションは、「公認指導員講習会教本」に記載されているアマルガメーションの中から規定小節を抜粋して指定する。
- 4) 試験は男女の区別をつけずに一緒に行う。男性のフィガーまたは女性のフィガーのどちらを行うかは選考委員が指定し、指定されたフィガーについてグループごとに全員同時に行う。
  - 5) 受験者グループは最大5名で構成する。受験者が5名以上のときは、各グループの人数が平均するように構成する。
  - 6) スタンダードは選考委員がLODを指定し、選考委員が指示した位置から始めるものとする。ラテンにおいては選考委員が方向を指定し、任意の位置で始めるものとする。
  - 7) 受験者は、音楽に合わせて同時にスタートする（同時は選考委員が指示する）。
  - 8) 評価内容は下記のとおりとする。
    - ① フィガーを正しく理解していること。
    - ② その種目の特徴を理解していること。

(2) 第二部：ペア

- 1) トライアル形式で60秒以内に行う。
- 2) 構成は自由とするが、極力C級指導員必修フィガーの範囲で踊ること。また、C級指導員講習会のためのアマルガメーションを使用しても良い。

- 3) 受験者の男性は男性として、女性は女性として踊ること。
- 4) 受験者同士でペアを組むことを原則とし、評価は両者を一括して行うが、人数にアンバランスを生じた場合は、評価対象者だけに背番号をつけて評価を行う。
- 5) ワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャ4種目の中から、スタンダード1種目およびラテン1種目の2種目とし、種目は受験者が選定することができる。試験の前に練習時間を与える。
- 6) ダンス指導員としてふさわしい踊りであるかどうかを総合的に判断する。

### 3. 面接試験

面接試験は、指導員としての資質を有しているか否かを判断するために実施する試験で、主に指導員心得が備わっているか否かを判定する。

## IV. 指導員選考委員の選任

実技試験は3名以上、面接は2名以上で構成する選考委員によって評価される。選考委員は、JDSF指導部が任命する。

付則

平成15年6月27日制定

平成16年9月26日改定

平成20年8月08日改定